

資料 No.	試験の種類 期 間	供試動物	1群当り 供試数	投与方法	投 与 量 (mg/kg/日)			試験機関 (報告年)
					(ppm)	♂	♀	
13-6	発がん性 (28ヶ月間)	ラット (ウイスター)	♂60 ♀60	経 口 (混餌)	0	0	0	ハノーバー獣 医科大および ヘキストAG (1985年) 西ドイツ
					5	0.25	0.34	
					30	1.5	2.0	
					180	9.1	11.7	
14-1	発がん性 12ヶ月中間 屠殺試験	マウス (NMRKf)	♂10 ♀10	経 口 (混餌)	0	0	0	ハノーバー獣 医科大および ヘキストAG (1983年) 西ドイツ
					2.5	0.35	0.43	
					10	1.3	1.6	
					40	5.5	6.6	
14-2	発がん性 (No.24-1の 追加試験) 肝酵素の測 定	マウス (NMRKf)	♂10 ♀10	経 口 (混餌)	0	0	0	ヘキストAG (1984年) 西ドイツ
					2.5	0.35	0.43	
					10	1.3	1.6	
					40	5.5	6.6	
14-3	発がん性 (24ヶ月間)	マウス (NMRKf)	♂50 ♀50	経 口 (混餌)	0	0	0	ハノーバー獣医 科大、ハン チンドン研お およびヘキス トAG(1985年)
					2.5	0.34	0.40	
					10	1.4	1.6	
					40	5.5	6.5	
15-1	繁 殖	ラット (CD)	♂30 ♀30	経 口 (混餌)	F0: 0	0	0*	ライフサイエン ス研究所 (1985年) イギリス
					5	0.28	0.4	
					30	1.7	2.8	
					180	10.2	16.4	
					F1: 0	0	0*	
					5	0.37	0.48	
					30	1.9	3.0	
					180	11.6	17.3	
15-2	繁 殖 (再試験)	ラット (KFM-Han )	♂30 ♀30	経 口 (混餌)	F0: 0	0	0*	リサーチアン ドコンサルテ ィングカンパ ニーAG (1986年) スイス
					5	0.33	0.52	
					30	2.0	3.1	
					180	11.9	18.7	
					F1: 0	0	0*	
					5	0.37	0.53	
					30	2.3	3.2	
					180	13.5	19.0	
16	催奇形性	ラット (CD)	♀25	経 口	0 10 32 100		ハンチンドン 研究所 (1983年) イギリス	
17	催奇形性	ラット (ウイスタ ー)	♀20	経 口	0 10 32 100		ヘキストAG (1982年) 西ドイツ	
18	催奇形性	マウス (CD-1)	♀30	経 口	0 2 10 50		ハンチンドン 研究所 (1985年) イギリス	
19	催奇形性	ウサギ (ヒマラヤ 白色種 )	♀15	経 口	0 12.5 50 200		ヘキストAG (1982年) 西ドイツ	

資料 No.	試験の種類 期間	供試動物	1群当り 供試数	投与方法	投与量 (mg/kg/日)	試験機関 (報告年)
20	催奇形性	ウサギ (ヒマラヤ 白色種)	♀15	経口	0 2 10 50	ヘキストAG (1983年) 西ドイツ
21	催奇形性	サル (カニクイ)	♀11-21	経口	10 50	ヘキストAG (1984年) 西ドイツ
22 (GLP)	変異原性 (復帰変異)	<u>Salmonella</u> <u>typhimurium</u> 、 <u>E.coli</u>	—	—	( $\mu\text{g}/\text{plate}$ ) 0、156.3、312.5、 625、1250、2500、 5000	化学品検査協会 (1986年)
23	変異原性 (染色体異常)	ヒトリンパ球 細胞	—	—	( $\mu\text{g}/\text{ml}$ ) 0、1、10、100、1000	RBM研究所 (1982年) イタリア
24 (GLP)	変異原性 (DNA修復)	<u>Bacillus</u> <u>subtilis</u>	—	—	( $\mu\text{g}/\text{disk}$ ) 0、313、625、1250、 2500、5000、10000	化学品検査協会 (1986年)
25	変異原性 (小核試験)	マウス (NMRKf)	♂ 5 ♀ 5	経口	0、18、180、1800	ヘキストAG (1984年) 西ドイツ
26	薬理	ラット (WISKf)	♂ 5 ♀ 5		2,500	ヘキストAG (1986年) 西ドイツ

資料 No.5、6、8-1、8-2、9、10、11、12、13-1、13-2、13-4、13-6、14-1 および 14-3 の試験における役割分担について：

これらの試験は、ヘキスト AG の施設および研究者、技術者によって実施されているが、試験計画書の作成、試験実施過程の監督および試験の評価は、ハノーバー獣医科大学の C. Messow 教授と共に行われた。

なお、資料 No.14-3 の試験については、病理学検査がハンチンドン研究所によって実施された。

フェノキサプロップ-P-エチル

資料 No.	試験の種類 期 間	供 試 生 物	1群当り 供 試 数	投与方法	投 与 量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)
R-1 GLP	急性毒性	ラット	雄：5 雌：5	経口	2458, 3072, 3840, 4800, 6000	(財)残留農薬研 究所(1993)
R-2	急性毒性	ラット	雄：10	経口	1000, 1600, 2500, 4000	Hoechst AG (1981)
R-3	急性毒性	ラット	雌：10	経口	1000, 1600, 2500, 4000	Hoechst AG (1981)
R-4 GLP	急性毒性	マウス	雄：5 雌：5	経口	5000	Hoechst AG (1985)
R-5 GLP	急性毒性	ラット	雄：5 雌：5	経皮	2000	Hoechst AG (1985)
R-6	急性毒性	ラット	雌：6	経皮	2000	Hoechst AG (1979)
R-7 GLP	亜急性毒性 (用量設定)28日 間	ラット	雄：5 雌：5	混餌	0、20、80、320、1280、 5120ppm	RCC (1986)
R-8 GLP	亜急性毒性 13週間	ラット	雄：10 雌：10	混餌	0,10,80, 640ppm	RCC (1986)
R-9 GLP	亜急性毒性 (用量設定) 28日間	マウス	雄：5 雌：5	混餌	0, 20, 80, 320, 1280ppm	RCC (1986)
R-10 GLP	亜急性毒性 13週間	マウス	雄：10 雌：10	混餌	0, 10, 80, 640ppm	RCC (1987)
R-11 GLP	亜急性毒性 (用量設定) 28日間	イヌ	雄：1 雌：1	混餌	0,80,320,1280ppm	RCC (1986)
R-12 GLP	亜急性毒性 13週間	イヌ	雄：4 雌：4	混餌	0,80,400,2000ppm	RCC (1986)

資料 No.	試験の種類 期 間	供 試 生 物	1 群当り 供 試 数	投与方法	投 与 量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)
R-13	肝毒性(スクリーニング) 30日間 グルタチオン濃度、 肝酵素活性測定	ラット	雄：5 雌：5	混餌	0,2,20ppm	Hoechst AG (1982)
R-14	肝酵素測定(スクリーニング) 30 日間 グルタチオン濃度、 肝酵素活性測定	マウス	雄：15 雌：15	混餌	0,2,20ppm	Hoechst AG (1982)
R-15	肝酵素測定 28日間 グルタチオン濃度、 チトクロームP-450濃度肝酵素 活性測定	マウス	雄：5 雌：5	混餌	0,20,80, 320, 1280ppm	RCC (1987)
R-16 GLP	肝酵素測定 28日間 グルタチオン濃度、 チトクロームP-450濃度肝酵素 活性測定	イヌ	雄：1 雌：1	混餌	0,80,320,1280p pm	RCC (1987)
R-17 GLP	催奇形性 妊娠7-16日	ラット	雌：20	経口	0,10,32, 100	Hoechst AG (1985)
R-18 GLP	催奇形性(胚及び出産後 の発育毒性)妊娠7-16日	ラット	雌：20	経口	0,10,32, 100	Hoechst AG (1987)
R-19 GLP	催奇形性 妊娠7-19日	ウサギ	雌：15	経口	0,10,32, 100	Hoechst AG (1986)

資料 No.	試験の種類 期 間	供 試 生 物	1 群当り 供 試 数	投与方法	投 与 量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)
R-20	変異原性 Ames test	サルモネラ 菌	20, 100, 500, 2500, 10000 $\mu\text{L}/\text{プレート}$			Laboratorium fuer Mutagenitaetspruef ung (1981)
R-21	変異原性 GLP 染色体異常	ヒトリソバ 球培養 細胞	5,7.90, 12.5, 20.0,31.0, 50.0, 79.0, 125 $\mu\text{L}/\text{mL}$			Life Science Research (1987)
R-22	変異原性 GLP 突然変異	チャイニーズ ハムスター 培養細 胞	6.25, 12.5, 25.0, 50.0, 100 $\mu\text{L}/\text{mL}$			Life Science Research (1986)
R-23	変異原性 GLP 小核試験	マウス	雄 : 5 雌 : 5	経口	1000, 2000, 4000	Hoechst AG (1986)
R-24	変異原性 GLP 突然変異	酵母	2.50, 5.00, 10.0, 20.0, 40.0 $\mu\text{L}/\text{mL}$			Life Science Research (1986)
R-25	変異原性 GLP 有糸分裂異常	酵母	0.200, 0.632, 2.00, $\mu\text{L}/\text{mL}$		6.32, 20.0	Life Science Research (1986)
R-26	変異原性 GLP 不定期DNA合成	ラット 肝細胞	2.51, 5.02, 10.0, 25.1, 50.2, 100, 201, 301, 502 $\mu\text{L}/\text{mL}$			Hazleton Biotechnologies (1986)
R-27	ラット心電図	ラット	雌 : 5	経口	0,100,300,10 00mg/kg	Hoechst AG (1987)

Hoechst AG : Hoechst Actiengesellschaft AG (ドイツ)

RCC: Research and Consulting Company AG あるいは Research and Consulting Umweltchemie  
AG(スイス)

資料 No.	試験の種類	供試動物	試験項目・ 試験方法等	試験機関 (報告年)
27	動物における生 体内運命 (組織内濃度)	ラット (ウイスター)	経口、静脈内投与	ヘキストAG (1982年) 西ドイツ
28	動物における生 体内運命 (組織内濃度)	ラット (ウイスター)	経口単回投与	ヘキストAG (1984年) 西ドイツ
29	動物における生 体内運命 (組織内濃度)	ラット (ウイスター)	経口反復投与 (14日)	ヘキストAG (1984年) 西ドイツ
30	動物体内におけ る代謝	ラット (ウイスター)	経口単回または反復投与 (14日)	ヘキストAG (1985年) 西ドイツ
31	動物体内におけ る代謝	ラット (ウイスター)	経口単回投与 dioxypyphenyl 標識体を供試	ヘキストAG (1985年) 西ドイツ
32-1	動物における生 体内運命 (代謝及び 組織内濃度)	ラット (ウイスター) ウサギ (ヒマラヤ白色種) サル (カニクイ)	経口反復投与	ヘキストAG (1984年) 西ドイツ
32-2	動物における生 体内運命 (組織内濃度)	妊娠ラット (ウイスター)	経口反復投与 (9日)	ヘキストAG (1984年) 西ドイツ
32-3	動物における生 体内運命 (組織内濃度)	妊娠ウサギ (交雑種)	経口反復投与 (12日)	ヘキストAG (1984年) 西ドイツ
32-4	動物における生 体内運命 (代謝及び 組織内濃度)	ウサギ (ニューランド 白色種)	経皮単回投与	RCC (1986年) 西ドイツ

資料 No.	試験の種類	供試植物等	試験項目・ 試験方法等	試験機関 (報告年)
32-5	動物における生 体内運命 (組織内濃度)	ラット (ウィスター)	経口単回投与	三共(株) 農薬研究所 (1992年)
33	植物体内におけ る代謝	大豆	温室条件下 茎葉散布	Gutenberg 大学及び ヘキストAG (文献) (1984年) 西ドイツ
34	植物体内におけ る代謝	大豆	温室条件下 茎葉散布  dioxyphenyl 標識体を供試	ヘキストAG (1984年) 西ドイツ
35	土壌における代 謝	土 壌	好気条件	ヘキストAG (1982年) 西ドイツ
36	土壌における代 謝	土 壌	嫌気条件	ヘキストAG (1982年) 西ドイツ

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値			作物残留試験成績 ppm	備考
				登録保留 基準値 ppm	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
米(玄米をいう)	0.05					0.05: アメリカ		
小麦	0.1					0.1: カナダ		
大麦	0.1					0.1: カナダ		
ライ麦	0.01					0.01*: オーストラリア		
とうもろこし								
そば	0.1					0.1: カナダ		
上記以外の穀類	0.01					0.01*: オーストラリア		
大豆	0.1		○	0.1		0.1: カナダ		
小豆類(いんげん、ささげを含む)	0.1		○	0.1		0.1: カナダ		
えんどう								
そらまめ								
らっかせい	0.05					0.05: アメリカ		
上記以外の豆類	0.01					0.01*: オーストラリア		
ばれいしょ	0.1					0.1: カナダ		
さといも類(やつがしらを含む)								
かんしょ	0.1		○	0.1				
やまいも(長いもをいう)								
こんにやくいも								
上記以外のいも類								
てんさい	0.1		○	0.1		0.1: カナダ		
さとうきび								
だいこん類(ラディッシュを含む)の根								
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉								
かぶ類の根								
かぶ類の葉								
西洋わさび								
クレソン								
はくさい								
キャベツ	0.1		○	0.1		0.1: カナダ		
芽キャベツ								
ケール								
こまつな								
きょうな								
カリフラワー	0.1					0.1: カナダ		
ブロッコリー	0.1					0.1: カナダ		
上記以外のあぶらな科野菜								
ごぼう								
サルシフィー								
アーティチョーク								
チコリ								
エンダイブ								
しゅんぎく								
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む)								
上記以外のきく科野菜								
たまねぎ	0.1		○	0.1		0.1: カナダ		
ねぎ(リーキを含む)								
にんにく								
アスパラガス	0.1					0.1: カナダ		
わけぎ								
上記以外のゆり科野菜								
にんじん	0.1		○	0.1		0.1: カナダ		
パースニップ								
パセリ								
セロリ								
みつば								
上記以外のせり科野菜								
トマト								
ピーマン								
なす								
上記以外のなす科野菜								
きゅうり(ガーキンを含む)								
かぼちゃ(スカッシュを含む)								
しろり								
すいか								
メロン類果実								
まくわうり								
上記以外のうり科野菜								



農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値			作物残留試験成績 ppm	備考
				登録保留 基準値 ppm	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
ほうれん草 オクラ しょうが 未成熟えんどう 未成熟いんげん えだまめ	0.1 0.1		○ ○	0.1 0.1				
マッシュルーム しいたけ 上記以外のきのこ類 上記以外の野菜								
みかん なつみかん なつみかんの外果皮 なつみかんの果実全体 レモン オレンジ(ネーブルオレンジを含む) グレープフルーツ ライム 上記以外のかんきつ類果実								
りんご 日本なし 西洋なし マルメロ びわ								
もも ネクタリン あんず(アプレコットを含む) すもも(プルーンを含む) うめ おうとう(チェリーを含む)								
いちご ラズベリー ブラックベリー ブルーベリー クランベリー ハックルベリー 上記以外のベリー類果実	0.1		○	0.1				
ぶどう かき バナナ キウイ パパイヤ アボカド パイナップル グアバ マンゴー パッションフルーツ なつめやし 上記以外の果実								
ひまわりの種子 ごまの種子 べにばなの種子 綿実 なたね 上記以外のオイルシード	0.1 0.05 0.1 0.1					0.1 0.05 0.1 0.1	カナダ アメリカ カナダ カナダ	
ぎんなん くり ペカン アーモンド くるみ 上記以外のナッツ類 茶 コーヒー豆 カカオ豆 ホップ								

\*1 オーストラリアで検出限界値として設定されている基準値